

INDEX

- | | | |
|--------------------------|------------|---------------|
| ① 巻頭言 | ⑥ 児童施設より | ⑳ 叙歎こあいさつ |
| ② オーストラリア訪問 | ⑦ 高齢者施設より | ㉑ 法人研究発表会お知らせ |
| ③ 法人たすきリレー
あすなろ創立20周年 | ⑧ 海への里帰り | ㉒ 役員会 |
| | ⑨ 各種法人研修報告 | |

社会福祉法人 宝山寺福祉事業団 〒630-0257奈良県生駒市元町2-14-8桃李館内 TEL:0743-74-1172/FAX:0743-74-1911

巻頭言

「中秋の名月 月のうさぎ」

理事長 辻村 泰範

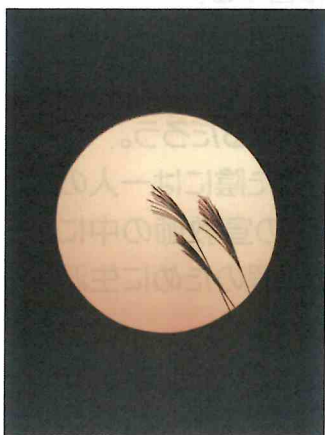
「月見る月はこの月の月」と歌われた、今年の中秋の名月も、17日の満月も言葉通りの爽やかな見事な月であった。と言ってもそれは我が家の庭先から眺めた月の話に過ぎない。遠く離れた街では雲に隠れて、あるいは雨で月見どころではないというところもあっただろう。しかし勝手なもので、少し月を眺めていると、この同じ月をあの人眺めて感慨にふけっているに違いないと思ってしまった。

同じものを見ていても、どの角度から、あるいはどの位置から眺めるかによって見え方が異なるのは子どもでも知っている。心理学の錯視のテストでは同じ図形が異なった意味を持った図形に見えることもよく知られている。同じ文章が、その時の読み手の心理状態で異なった意味に解釈されるということもよくあることだ。当たり前前だと言えばそれまでだが、自分の心のありようを客観的に捉える、知るといえるのは簡単ではない。私の背後に故谷口光明西大寺長老の筆になる「如実知自心」の短冊が掛かっている。ありのままの自分の心を知る、という意味に

なるのだろうか。先入観や、偏見、こだわり、迷い、邪（よこしま）な考え、卑しい気持ち等々仏教ではこれらを煩惱という言葉で表しているが、煩惱の雲に覆われて本当の月が見えていないのが自分の心なのか。否、その雲、煩惱を取り払った美しい月を見ているのが本来の自分の心なのか？真言宗では伝統的にこれは悟りを表す言葉である、満月をただ月と観るけがれなき心を取り戻せと解釈するのですが、どうでしょう。

人の心は過ちを犯しやすい、真実、真理はなかなか見えてないものだと考えるところからスタートするのも悟りに近づく道の一步かもしれない。

・・・「幽霊の正体見たり枯れ尾花」





オーストラリア訪問記

辻村 泰範

在豪日本大使館からカウラ脱走事件の80周年記念式典を行うので奈良からも参加して欲しいとの知らせがあったと知ったのは、昨年暮れ。

早速反応されたのは音楽の森ファミリー合唱団の荒井敦子さんだった。そりや行かにななるまいと私も合点承知。我が法人からも安井理事、米田いこまこども園園長、森本梅寿荘施設長、辻村いこま乳児院長が加わって総勢25名の訪問団が結成された。

8月2日出発、8日帰国で公式行事がぎっしりの慌ただし日程の一部を報告する。

オーストラリアの最近の世論調査で最も信頼できる国は日本だと報じられたという。若者たちは、簡単にワーキングビザが取れることを利用してアルバイトがてらにオーストラリアを目指す。我々の国が第二次大戦で敵国として戦火を交えたことを知っている人はどれ位いるだろう。

実は、現在のこうした日豪友好と親善が当たり前のように語られるようになった陰には一人の献身的な神父がいたのだ。終戦直後奈良に派遣されたカトリックマリスト会の宣教師の中にトニ・グリーン神父と弟のポール・グリーン神父がいた。今年は日豪の相互理解と和解のために生涯を捧げたトニ・グリーン神父の没後30年でもある。

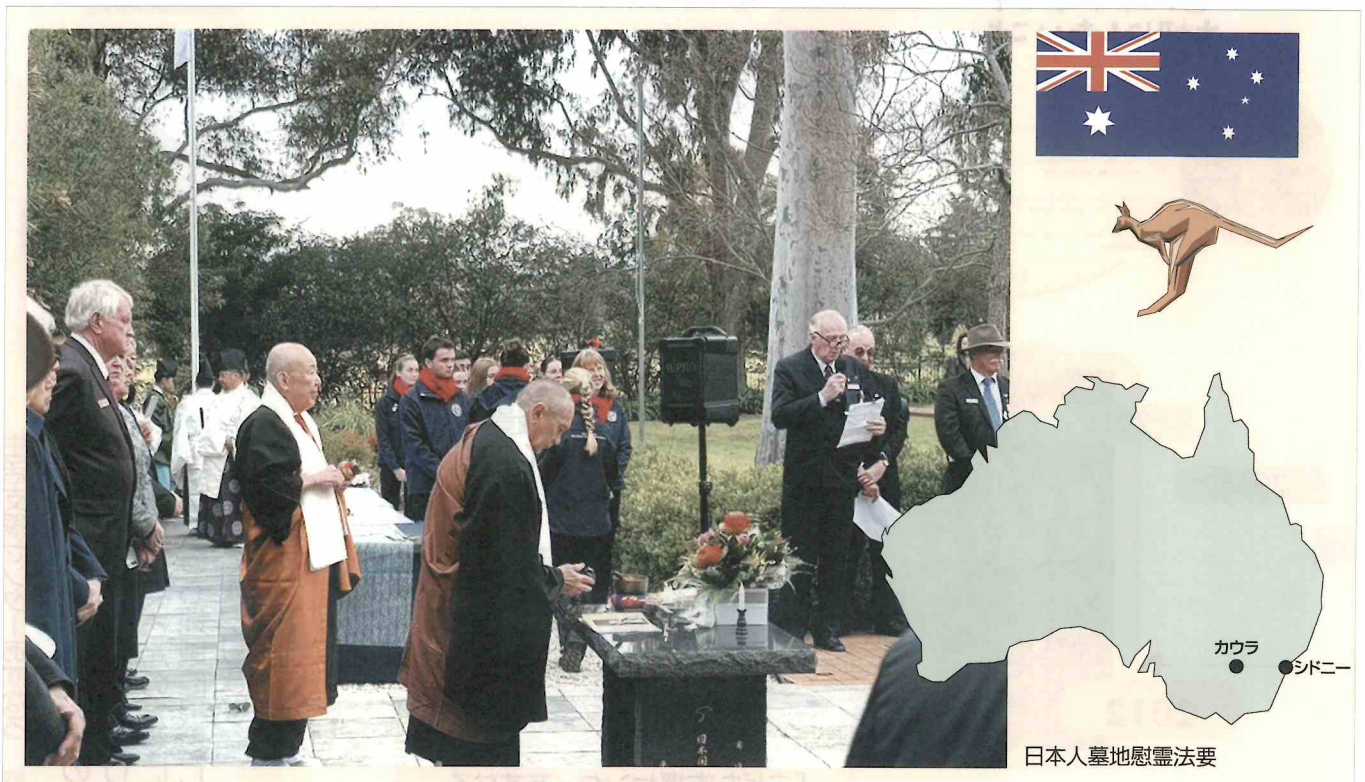
1942年2月19日、日本軍はオーストラリアの北端ダーウィンを空襲、壊滅的な被害を与えた。もう一つのパールハーバーと呼ばれている。1942年5月31日、日本海軍特殊潜航艇3隻がシドニー湾の海軍基地を攻撃。1944年8月5日カウラ捕虜収容所での日本人捕虜大脱走。これらはオーストラリア本土での三大事件で誰もが知っている。日本に対して憎しみを持たないはずがない。戦後しばらくは反日感情が収まらなかったのは当然だろう。「忘れることはできなくても、許すことはできる」神父の献身的な説得にオーストラリアの将軍がそう答えたという。

ハンターズヒルのマリスト会本部の食堂で我々を出迎えてくれたポール神父は95歳。手押し車を押しながら墓所に案内してくださった。その墓碑は煉瓦の壁に埋め込まれた小さなプレート一つ。他の神父達と同じように質素な形だった。

80周年の式典が行われるカウラはシドニーから約300Km。バスは、途中休憩や昼食を挟み15時過ぎにカウラのモーテルに到着。荒井さんたちのグループは早速地元の学校の子供達と式典での合唱のリハーサル。我々は、日本から贈られた平和の梵鐘の打鐘式に参列。アボリジニの祈りの儀式で清められ多くの参列者の前で私も代表して大きく一打ち。隣接する建物の壁面にはグリーン神父の業績を讃えるレリーフが嵌め込まれており、中央にグリーン神父の顔が、その横には僧侶の姿も刻まれている。説明板には辻村泰範だと。



トニ・グリーン神父顕彰



夕刻の収容所跡地での記念式典では、荒井さんたちのファミリー合唱団が地元の生徒たちと一緒に草原に美しい声を響かせた。5日の事件発生時間深夜午前2時の跡地での記念イベントには有志が参加。9時半からいよいよ墓地での慰霊法要。

オーストラリア兵士の墓地には犠牲となった4人の守備兵を含む墓標が、また隣接する日本人墓地には事件で亡くなった231名を含む日本人が葬られている。慰霊法要には州の総督を初め政府要人、駐豪日本大使、総領事、外務大臣政務官など多数の官民関係者が参列。F35ジェット戦闘機が轟音を響かせて飛来、航空自衛隊との連携の証を示すという肝の入れようだ。NHKシドニー支局のテレビ取材が日本でも放映されたという。語り継がねばならない歴史を改めて心にきざむ旅であった。

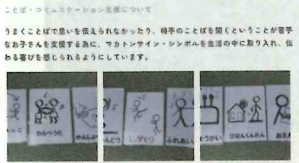
創立20周年

2024

今のあすなろには、子どもたち100人、
スタッフ48人が在籍し、
笑顔いっぱい毎日過ごしています！



2024



こども支援センター
あすなろ
大切にしたいこと



- 01 利用者や職員の笑顔が溢れるように、日々の生活を支えます。
- 02 遊びや学習を通して、子どもたちの成長を支援します。
- 03 地域と連携し、子どもたちの生活を支えるために、様々な取り組みを行います。
- 04 最新の設備を導入し、安全な環境を整え、子どもたちの生活を支えます。
- 05 地域社会が支え手となるよう、様々な取り組みを行います。

2023

ホームページを
全面リニューアル。

2023

2022

2021

2020

2019

2018

2017

2016

2015

2014

2012



利用してくれる
子ども達や職員の数が
増え、大きなイベントにも
挑戦しました。

「こども支援センターあすなろ
あずさ」が児童デイサービス
から児童発達支援センターに、
他の児童デイサービスが児童
発達支援事業所「アスナロ」
「メディカル」となる。

2009



旧生駒総合病院看護師寮「あずさ寮」を改修し、「総合支援センターあずさ
(3階建て)」が開設される。1Fにて児童デイサービス「こども支援センタ
ーあすなろ(あずさ)」がスタート。



生活支援センターあすなろ 管理者 中井 加苗
5人のスタッフと33人の子どもたちでスタートしました。
あつという間に駆け抜けた20年でした。
本当にたくさんの方々を支えられて今のあすなろがあります。
これからも地域に根差した、信頼される施設であるよう
精進してまいります。

こども支援センター あすなる

障害児通園施設として奈良県では草分け的存在の当法人「仔鹿園」。生駒の地で同様のサービスを始めたいと誕生した「あすなる」。引っ越しを重ね、サービスを拡充しながら20年が経ちました。ご利用頂いたこども達と保護者の皆様、関係機関の皆さんに心より感謝を申し上げます。

173号と174号のひめゆり通信「法人たすきリレー」では「あすなる20周年特集」をお送りします。



2013

旧「いこま乳児院」を改修し、児童発達支援事業所「アスナロ」を移行して、児童発達支援センター「こども支援センターあすなる」としてスタート。「生活支援センターあすなる」にて、指定特定相談・障がい児相談等を開始。



生駒市もやい館で2か所目の「児童デイサービス」と「生活支援センターオープンスペースあすなる」がスタート。

2005



生駒市メディカルセンターで3か所目の「児童デイサービス」がスタート。

2011

2006

2010

2009

2008

2007

2006

2004

2004



障害者自立支援法による「児童デイサービスこども支援センターあすなる」と「相談支援事業生活支援センターあすなる」を開設。（愛染寮集会所あすなる館にて）

2013

2012

児童施設より

6p ■ 奈良県発達障害者支援センターでいあー

7p ■ いこま乳児院

8p ■ 平城児童センター
■ 児童発達支援いつぼ

9p ■ 仔鹿園
■ いこまこども園

10p ■ いこま乳児保育園

11p ■ あすかの保育園

12p ■ 極楽坊あすかこども園

ペアレント・トレーニング

奈良県発達障害者支援センターでいあー

相談員 小畑 咲子

でいあーでは帝塚山大学のこころのケアセンターと共催で2023年度からペアレント・トレーニング(以下ペアトレ)を年2回(春・秋)開催し、この11月で4回目の実施となります。ペアトレは子育てに悩む保護者を対象に、講義やロールプレイなどを行いながら、お家での関わり方のヒントを見つけてもらうプログラムです。全6回のプログラムの中で、子どもの良いところに[プラスの注目]をして、気になる行動に対しては、何故その行動をしているのか[観察]し、“きっかけ”と“結果”を工夫したり、声のかけ方を変えたりと、日々の生活の中で少しだけ子どもとの関わり方を意識して接してもらいます。参加者の中には初回は「親子関係が崩れそう」と言っていたお母さんも、「ちょっと褒めただけで、子どもが変わった」「嬉しそうに〇〇するんです!」とお子さんの素敵なおところをたくさん見つけてくれるようになりました。

また、この11月開催のペアトレでは、子どもに関わる事業所などの支援者に向けて[支援者対象講座]も並行して行います。ペアトレを実施するのはハードルが高いと思っている支援者が多くいるため、実際のペアトレに打合せから参加・見学してもらい、運営方法やプログラムの進め方などを体験的に学んでもらいたいと考えています。奈良県内の多くの事業所がペアトレを実施できて、子育ての悩む保護者の支えになれるように、支援者養成にも力を入れていきたいと思ひます。



第67回全国乳児院研修会 奈良大会を終えて

いこま乳児院

副主任保育士 廣津 小百合



全国乳児福祉協議会 会長 平田ルリ子氏

7月に全国乳児院研修会奈良大会が、100年会館と奈良日航ホテルで開催されました。乳児院は、これまでの専門養育・支援の質の向上と充実に加え、高機能化・多機能化に関する事業についても取り組みを一層進めていく必要があるとされています。今回は、乳児院の職員に必要とされる専門的な養育・支援に関する知識や技術等を学び、実践報告や分科会を通じて各施設の取り組みを共有し、乳児院の職員としての専門性を向上させる目的の研修会でした。加えて、特別講演では、

帝塚山大学客員教授の西山厚先生が「母と子歴史のなか美術のなか追憶のなかの」というタイトルで先生の熱い思いを語られ、100年会館の300名を超える聴衆は、暑さも忘れ一同聞き入りました。

一日目研修後の交流会では担当県として、全国から宿泊研修に胸を膨らませながら奈良に来て下さる職員の皆様に私たちの「おもてなしの心」を少しでも伝えたいと県内二つの乳児院(いかるが乳児院)は、仕事の合間を縫ってお互いの施設を行き来し、あれこれと準備に頭を悩ませました。奈良の代表選手「せんとかん」のお出迎えに始まり、奈良の地酒でのおもてなし、最後は、県内の児童養護施設の仲間に応援してもらって「5レンジャー登場」のご当地クイズに場内は大盛り上がり。奈良県の社会的養護施設のチームワークがキラリと光りました!

二日目夕方まで研修は続きました。担当県として慣れないことも多く、不十分なこともあったかもしれませんが、精一杯務め良い経験となる機会をいただきました。



奈良の代表選手「せんとかん」と



チーム連携が整っています

真夏と共に合同夏祭りを

センターでは一時中止した様々な行事をできるだけ元に取り戻す取り組みを行ってきました。感染症はなかなか収束することはありませんが希望の多かった野外自炊、曾爾キャンプ等の活動を再開してきました。

今年は7月に特に希望の多かった「そうめん流し」を行いました。夏の暑い日でも静かな環境の中でさっぱり美味しく食べられるそうめん。とても好評で夏ならではの時間を過ごすことができました。

また8月には久しぶりに三サークル合同の夏祭りを行いました。ふれあいサークルの小学生の子どもたちは各お店の担当に！日頃は接しない小さいサークルの子どもたちに手取り足取りやさしく教えてあげていました。いつもとはまた違った頼もしい一面を発揮していました。小さな子どもたちも、お兄ちゃん、お姉ちゃんに甘えうれしそう！

ゲームやあて物、スーパーボールすくいやヨーヨー釣り、アイス、たこせんべいなどなど、順番に

平城児童センター

センター長 徂徠 おさむ

楽しみました。

初めてアイスやたこせんべいを口にしたら子ども！ワクワクドキドキだったようです。

暑い一日でしたが楽しいひと時であったならうれしいです。これからも子どもにとって、よりよい居場所となるように取り組んでいきたいと考えています。



夏祭り

とうもろこし！

「異常な暑さ」と連日報道されるような気温の中ですが、いっぽの子ども達は暑さにも負けず元気に夏を楽しんでくれています。4月から給食が始まった事と共に、今年度より極楽坊あすかこども園さんにお声かけを頂き、「食育」にも一緒に参加させて頂くようになりました。

そら豆の皮むきやスナップエンドウの筋とり等、季節の野菜を中心に毎回楽しく参加させて頂いています。中でも子ども達にとって衝撃だったのは「とうもろこし」です。

とうもろこしと言えば「黄色いつぶつぶ」というイメージの子が多いのか、本物のとうもろこしが出てくると不思議そうな顔、そして怪訝な顔をしています。黄色くなく緑、なおかつ茶色のひげまでついている「これはなんだ！」という様子で、触る事に敏感で苦手な子は手に取るのも躊躇していました。においを嗅いだり、先生と一緒にそっと触ったりしながら恐る恐る皮をむいていくと、ツヤツヤの本体が！子ども達も、そして思わず職員も大喜びしてしまいました。普段口に入っている物を

児童発達支援いっぽ

副主任 大島 友美

実際手に取り、匂いや触った感覚等で感じる事の大切さを改めて実感しました。その後、制作でもとうもろこしを作ったのですが、みんなとても生き活きと取り組めました。

暑い日が続き、大人でも元気がなくなる日もありますが子ども達と共に夏の恵みをしっかり頂き、力に変えていきたいと思えます。



黄色のつぶつぶはどこだ〜！

主任 雄谷 恵美

今年度は障害福祉サービス等報酬改定があり、年度初めからバタバタとしたスタートでした。子どもたちの支援計画もどのように変更していったらいいのかとあれこれ考え、今ようやく着地点が見えた感じです。しかし変更したことで、日常業務に加え慌ただしく仕事をこなしていかなければなりません。戸惑いながらもみんなが新しい形に慣れるまで時間を要することでしょう。もしかすると職員は心の中では叫んでいるかもしれませんが(も～忙しすぎる!)それでも文句を言わず頑張ってくれていることに感謝です。

そんな私もここ最近では忙しすぎてゆっくりと子どもたちと関わる事ができない日々…パソコンに向かってしていると腰も肩も辛い、午後からは

睡魔にも襲われて戦いの時間。伸びをしてみたり声を出してみたりと色々を試みますが、効果の持続はありません。そんな時、やはり“癒し”をくれるのは子どもたちなのだ実感しています。疲れた時、保育室まで行って子どもたちの様子を見てみると、気づいて手を振ってくれたり笑顔を見せてくれたりしてアピールされると、ほっこりした気持ちになります。

仔鹿園の子ども達はパワフルです!元気な姿をいつも見られるように、いつまでもここが子どもたちや保護者の方々にとって楽しい場所になるように、これからも子どもたちに負けないパワーを発揮し職員一丸となって取り組んでいきたいと思ひます。

つながりっこ

本園では昨年度より、幼児クラスを対象に異年齢保育「つながりっこ」を取り入れています。3学年を6つのグループに分け、月に一回、グループの保育室で遊んだり、ゲーム遊びや製作、一緒に給食を食べたりしています。今年度は、昨年経験していることもあり、年上の子どもたちが年下の子どもたちに進んで話しかけ、優しく関わる姿が多く見られるようになりました。手を繋いでトイレに行く姿や玩具の遊び方を教え合う姿、「私のお姉ちゃん」と言ってつながりっこ以外の時に廊下で手を振り合う姿など、温かくほほえましい様子が多く見られます。年齢の違う子どもが一緒に遊ぶことによって、社会性や協調性、思いやりの気持ち



グループ対抗玉入れ

いこまこども園

副主幹保育教諭 植田 登世子

などが生まれ、子どもたちの心に、たくさんの良い刺激が生まれます。年上の子どもたちに年下を気遣う思いやりの精神が芽生え、年下の子どもたちに年上のお兄さん・お姉さんに親しみを持ち、「自分もこうなりたい」という憧れの気持ちが生まれ、互いに尊敬し合える関係が築かれます。異年齢保育では、保育者は年齢の違う子どもたちの対応を同時にする必要があるので、安全に関しては特に配慮が必要となってきます。子どもたちが安全に、安心して自己発揮できる環境を作りながら、年齢の枠を越えて共に学び合い、成長していく姿をこれからも見守っていききたいと思ひます。



ふれあい遊び(みんななかよし)

感触遊びとの出会い

春、一歳児後半クラス、すみれ組は15名でスタートしました。主にハイハイをする子どもが半数いる中、5月には途中入園や進級もあり、本当に目まぐるしい日々を追われていたというのが正直な気持ちです。しかし周りからの沢山のサポートのおかげで、6月後半にはようやく園生活を安心、安定して過ごす姿が見られるようになり、心から安堵したことを今も思い出します。子どもたちの日々は無事に夏を迎え毎日、水、寒天、片栗粉、絵の具など様々な感触遊びを楽しみました。「絵の具遊び」では当初、手で感触を味わっていましたが、見ただけで泣いていたり、触ったものの、ぬるりとした感触に戸惑い、手をパタパタと振って何とか取ろうとしたりする反応がありました。遊んだ後の紙はその日のうちに保育室に飾ると「あっ、あっ」と言うおしゃべりの声が聞こえ、指差しする姿もたくさん見られました。また外遊びで出会ったアリやダンゴムシの絵も一緒に貼っておくと、更に興味を持つ姿が見られ、今では作品と虫でいっぱいのお部屋になっています。8月後半には刷毛や筆などの道具を使い始めました。



水遊びの後のほっこりタイム

いこま乳児保育園

副主任 城山 裕恵

たっぷりと絵の具を含ませた筆を紙の上に置き、動かすとしばらく描いたところを見つめ、その後保育士に驚きや面白さを伝えようとする姿が印象に残っています。一緒に遊びを楽しむ中で、一緒に目を丸くし、一緒に声を出して笑い合うと、笑顔がどんどん生まれていきます。そうやって共感し合うことで、子どもたちも全身で喜びを表現してくれています。そんな日々が私は本当に幸せです。

子どもたちの姿をこれからも担任はもちろん、いつも支えてくださる先生方と一緒に喜び合っていきたいと思います。



初めての絵の具遊び



赤ちゃん当番大活躍!

あすかの保育園では7月末から8月の間、3歳児～5歳児までの幼児クラスを縦割りにし、異年齢合同で過ごしています。今年はコロナ渦でしばらくできなかった赤ちゃん当番が復活!赤ちゃん当番は、年長児あおぐみが毎日2人ずつ乳児クラスにお手伝いに行く当番です。小さい子にかかわることで年長児としての意識を高め、思いやりの気持ちや自信をもつことを目的として行っています。年長児は赤ちゃん当番に行けるのをとても楽しみにしています。

「赤ちゃん当番がんばるぞ!」とはりきる子どもたちですが、いざ、クラスに入ると、小さい子が泣いているとどうしたらいいのか困ったり、「あっちのお姉ちゃんがいい!」と言われて悲しくなったり…思い通りにはいかずにとまどうことも多く「赤ちゃん当番もう行きたくない…」という子も出てきました。それでも何回か当番を重ねるうちに「まだ小さいもんな…」「この子はこのおもちゃ好きやねんな」とだんだん小さい子に合わせて遊んだりお世話をしたりしてくれるようになっていきました。そして先生に「ありがとう。あおぐみさん来てくれて助かるわ」と言われると嬉しくて「まかせて」と自信に満ちた表情になっていました。



一緒に手をつないで遊ぼうね

あすかの保育園

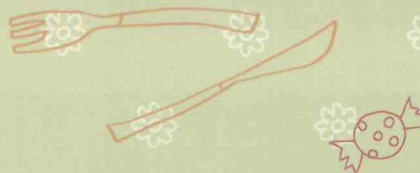
保育士 平林 美穂

小さい子たちの姿も変わってきました。お兄ちゃんお姉ちゃんに食べさせてもらおうと、いつもはなかなか給食が進まない子がパクパク食べたり、優しくトントンしてもらって嬉しそうに目を閉じて寝たりするのです。お兄ちゃんお姉ちゃんたちと一緒にリズム運動をすると、マネしてしようとする子も増えました。

この何年かはコロナ渦で異年齢でかわる機会がぐんと減ってしまっていました。今回久しぶりに赤ちゃん当番が復活し、年長児は様々な葛藤を経験しながら人の思いに気づいて思いやりの心がぐんと育った気がします。また小さい子もお兄ちゃんお姉ちゃんの姿に憧れ真似することで、自分でやってみたいという気持ちが更に芽生えました。異年齢で生活することは相手のことに気づき、思いやりをもって関係を深められる大切な機会なのだと思改めて実感した夏でした。



あ〜ん 食べてくれた!



上半期を振り返って

新園舎に移転し一年が経ちました。今年度は春から、行事の取り組み方の見直しをしています。6月に、念願だった自園開催の運動会がありました。入場門の設置場所から、本部席、観覧席の位置、トラックの向きなど、より良い状態で子ども達の姿を見て頂けるように、試行錯誤を重ねました。職員は初めてのことにドキドキしていましたが、運動会当日は前日までの雨が嘘のような晴天に恵まれ、子ども達は広い園庭で伸び伸びと遊戯をしたり、親子競技に汗を流したりして、たくさんの笑顔があふれていました。いくつかの反省点は来年への課題として考えなければいけません、とりあえず「楽しい運動会でした」の声が聞かれてほっとしました。また、7月に行った夏まつりは、初めての試みで、保育の中で子ども達が中心となって取り組みました。お地蔵様の法要の後、ホールにたてわりで作った6つの屋台を並べて、

園庭で運動会、たくさんの方に見ていただきました



極楽坊あすかこども園

副主幹保育教諭 中 美恵

あお組児がお店屋さんに変身しました。小さいクラスのお客さんにかき氷やチョコバナナを売ったり、金魚すくいに誘ったり、賑やかなひとときを過ごしました。

新しい園舎になり、新しいやり方で行事を経験したことで、職員一人一人が意見を出し合い、協力することの大切さを改めて感じる良い機会になりました。秋からの行事にも、子ども達も保育者自身も「楽しい」と思えるような取り組み方で、行事に参加できるように工夫していきたいと思います。

「子どもたちが作った金魚すくい、お店番もしました(なつまつり)」



高齢者施設より

13p

- 梅寿荘デイセンター
- デイセンター憩の家

14p

- 居宅介護支援センター延寿
- 梅寿荘居宅介護支援センター

15p

- 生駒市梅寿荘地域包括支援センター
- 特別養護老人ホーム梅寿荘

16p

- 特別養護老人ホームあくなみ苑
- デイセンター寿楽

上半期が過ぎて

今年4月から数えてはや6ヶ月、上半期がもうすぐ終わろうとしています。今年の夏は例年にないほど暑く、毎日のように熱中症警戒アラートが発表されましたが、梅寿荘デイセンターでは、ご利用者と職員ともに、大きな体調を崩される方もなく、安堵しています。

梅寿荘デイセンターでは、地域で信頼されるデイセンターを目指し、日々の業務に取り組んでいます。ご家族やケアマネジャーから信頼されるためには、デイセンターとしてご利用者の変化を、些細なことでも迅速に報告できることが重要だと考えています。

上半期を振り返ると、利用者の「食事が減った」

梅寿荘デイセンター

介護職 中村 宗司

「いつも通りのことで笑えなくなった」といった変化に気づきながらも、職員同士の口頭での申し送りで終わらせてしまい、他の職員やご家族、ケアマネジャーへの報告が遅れてしまうケースがありました。これは、信頼関係を築く上で非常に大きな問題です。

下半期は、全職員が危機感を共有し、意識することが重要です。生活相談員だけでなく、チームの一人ひとりが、ご利用者の些細な変化に気づき、すぐに記録に残す。記録を元に的確な報告を行う。このサイクルを確立することで、地域で一番信用されるデイセンターを目指していきたいと思います。

過去の課題から学ぶ家族交流会

昨年度から家族交流会を再開しましたが、多く集まってくださったにもかかわらず、進行役ばかりが話してしまい、ご家族のご意見や要望を上手く聞き出せなかったことや、個別の交流会では、他のご家族のことを聞きたいが情報が少なかったというご意見があり、課題が残されました。しかしながら、ご利用者のことを知るためにはご家族からの情報はとても貴重で、交流会を続けたい思いがありながら、どのようにすれば家族間の交流を深め話しやすくなるのか、スタッフ間で意見を出し合い、憩の家での行事の夏祭りとお餅つきを二本柱に、気軽にご家族に来ていただけるのではないかと話に至りました。

デイセンター憩の家

主任生活相談員 友國 和之

8月末に恒例の夏祭りを開催し、ご家族にお声をおかけしたところ、多くのご家族に来ていただくことができました。話しやすいつろぎのスペースと、楽しむスペース。また本格的な夏祭りらしさをイメージして憩の家地域支援室を利用し、まだまだ課題は残されましたが、盛大に開催ができたと同時に、ご家族同士のお話やスタッフ間との意見交換も同時にできたことに充実感を得ることができました。

在宅介護を無理なく継続し続けていただけることを願いながら、来年2月には節分お餅つきの交流会を予定しております。ご家族の協力があつての「憩の家」と思っております。ご協力に感謝申し上げます。

介護支援専門員の役割

介護保険が施行されてから、もうすぐ四半世紀を迎えようとしています。

私たち介護支援専門員は、ご利用者のニーズ把握、その方の生活課題の解決に向けた社会資源等を、調整・活用できるよう計画をつくり、その実行状況を確認し、ご利用者の自立支援と尊厳の保持を実現する取り組みを日々行っています。

制度が施行された2000年(平成12年)当時と異なり、介護支援専門員が実際に現場で対応するご利用者の姿も、多様化・複雑化しています。例えば、後期高齢者や独居高齢者の増加、身寄り

居宅介護支援センター延寿

主任介護支援専門員 中田 エミ子

が無い方への対応、認知症、医療処置を要する要介護高齢者の増加、そして介護を行う側の問題として、仕事と介護の両立などたくさんの課題があります。

そこで、幅広い視点で生活全体をとらえ、生活の将来予測や各職種の視点の知見に基づいた根拠のある支援の組み立てを行うことが介護支援専門員の役割です。

『ご本人が望む暮らしの実現に向け』ご本人・ご家族・地域の方・多職種と連携・協働しチームで支える仕組み作りを行っています。

気持ち新たに前を向いて

R5年度より同じ居宅介護支援を行う延寿と共に合同で研修や事例検討会を行うようになり二年目となりました。

私においてはR5年4月より一年間梅寿荘のケアマネージャーとして延寿のケアマネージャーの部署に席を移させていただき、同じ居宅介護支援を行う部署としてそれぞれの違いや業務の進め方・考え方などを改めて学ぶ機会をいただきました。

今までも法人内のケアマネージャーそれぞれ交流がなかったわけではありませんが、研修を共にする機会を持つ事で、意見を聞き相談できるケアマネージャーが法人内にたくさんいる事に改めてありがたい環境であると実感しました。

ケアマネージャーとして担当する利用者さんについて一人で抱え込んでしまうのではなく、いろいろな視点や気づきが言い合える事で、自分だけでは見えなかった課題や強みに気づくことが出来ました。

またケアマネージャーだけでなく、法人内のそれぞれの施設職員とも互いに相談し協力が求められる関係にある事にも心強さを感じると共に、

梅寿荘居宅介護支援センター

介護支援専門員 小出 弘美

私自身も自分の業務だけではなく何が出来るのかを考える機会となりました。

この4月より桃李館に席を戻し、気持ちを新たに利用者さんの支援にあたらせていただいております。事業所の形も少しずつ変わりながら、また業務改善の為スマートフォンの使用やケアプランテーター連携システムなどICT化も進んでいきます。

日々の変化に戸惑いもありますが、前向きに進んでいきたいと思えます。



9月10日延寿・梅寿荘居宅合同勉強会

看護師 長谷川 香織

2024年の夏も厳しい暑さが続きました。熱中症予防のために、暑さ指数(WBGT)が33°C以上になると気象庁と環境省が発表する熱中症警戒アラートがあります。今年はさらに強い警戒を呼び掛ける熱中症特別警戒アラートが新設され、アラート発表時に開放されるクーリングシェルターや平時にちょっと涼むために自由に立ち寄れるクールスポットも各市町村で対応されています。地球温暖化や異常気象も相まって、記録的猛暑の中での過ごし方への私たちの意識も高まっているように思います。

「エアコンの風が苦手」はよくご高齢の方から聞く言葉ですが、「睡眠時もエアコンはつけたままで」とのアナウンスはこの夏メディアでもよく耳にしました。年齢問わず、ネッククーラーやハンディファン、ファン付きベスト等の様々な機能性の高い暑さ対策グッズもよく活用されたようです。

そんな猛暑の中、なにより重要なのが水分補給です。ご自身が1日にどれくらい水分を摂取しているか把握されていますか？

1日に必要となる水分の量は、体の大きさ(体重)や活動量によっても異なりますが、大まかな目安としては「体重×40mL」あるいは「成人男性で3L、成人女性で2.5L」といわれています。ただし、この量には食事に含まれる水分も入っているので、実際に飲む量はこの約半分といわれています。

高齢者においては、感覚機能の低下もあり喉の渇きを感じにくくなることや、トイレ動作の負担などから水分摂取が不足しがちになります。水を貯える筋肉量も低下することから、熱中症や脱水のリスクがより高まり、今年の夏はセンターでも救急搬送に携わることが多かったように思います。

高齢者と脱水の問題は夏に限らず、1年通しての課題となっており、私たちは活動の中で日々啓発活動を行っています。日常の水分補給について軽く考えがちですが非常に重要で、生駒市の介護予防手帳にもポイントが掲載されています。老若男女関係なく、セルフケアが自然に浸透しますようにと願っています。

上半期を終え、下半期へ！

特別養護老人ホーム梅寿荘

介護主任 植田 昌樹

新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが「5類」に移行し、1年以上が過ぎました。人の流れや経済活動が復活し、施設でもコロナ禍前の日常が戻りつつあります。

今年度も早いもので上半期が終わりました。私は昨年度養護老人ホームの主任支援員として、今年度からは特別養護老人ホームの介護主任として従事しています。私たちが今年度に掲げた目標の中に「安心安全な介護サービスの提供」「働きやすい職場環境整備」があり、このことを実践するために4月から新たな委員会を立ち上げました。それは「ノーリフト委員会」です。ノーリフトケアとは、負荷の高い人力のみの移乗(ベッドから車椅子といった、物から物へ乗り移ることを)を禁止し、福祉用具を活用しようという考え方で、持ち上げない(抱え上げない)介護のことで、以前より移乗介助などで用いる用具(スライディングボードやシート)などはありましたが、なぜそれをするのか、根拠の深い理解までは浸透しておらず、車椅子からベッドへの乗り移り(移乗介助)は職員2名が「せーのっ」とご利用者の身体を抱え

たり持ち上げたりしている場面が見られました。現在の委員会活動報告としては、ノーリフトのメリットを学びつつ、跳ね上げ式車椅子の普及や、トイレ誘導のための立位補助機などの導入を検討しており、デモ機での利用者体験や、実際の介護現場で試用することにより、現場職員の福祉機器活用の理解をすすめているところです。しかし、現状は、人員に余剰のない中で、「これまで慣れ親しんだやり方がやりやすい」という変化への抵抗感や、「ちゃんとできるだろうか」という未知への不安感、これまでよりも動作の工程が増える＝時間がかかる＝1日にしなければいけないことが終わらせられるのか、といった疑問の声があり、現場職員によるデモ機の積極的使用や、メリット、デメリットの詳しい分析までは至っていないのが実状です。これから浸透し定着するまでまだまだ長い道のりですが、安心安全な介護サービスの提供とまた年齢や性別、体型に左右されることなくいつまでも働き続けられるそんな職場環境を目指したいです!!

上半期を終えて

私は、本年4月に副主任を拝命し、また2階特養から1階特養に異動したこともあって、“あっという間”に6カ月が過ぎました。この上半期で実感した事は、自分の考えを伝える事の難しさです。私だけでなく周りの職員も同様に、自分の考えを相手にきちんと伝えられているのだろうかと思える事が多かったように思います。ご利用者に対して、職員間においても、伝える側と聞く側では、人それぞれ捉え方が異なり、上手く伝わらない事が何度かありました。改めて『伝える』ことの難しさを痛感しました。

現在、何処の施設でも人材不足の状態が続く中、職員を確保し育成する事は大きな課題になっていると思います。あくなみ苑においても4月以降

特別養護老人ホームあくなみ苑

介護副主任 松田 佳子

に退職者が出るなど、現場は常に慌ただしさに追われることが日常茶飯事になっています。このような状態の中で職員を育成するには、指導する職員はもとより同僚職員に大きな負担がかかってしまい、皆が共倒れにならないか気がかりでなりません。この不安を解消する特効薬は、職員同志のコミュニケーションであり、これがどこまで機能しているか、どういう時に機能していないのか考える絶好の機会となりました。

こうした経験を活かし、今後もしっかりとした知識や考えを持って、『伝える』ための努力を惜しまず、職員の皆さんと力を合わせて日々の業務に取り組んでいきたいと考えています。

新年度、上半期が過ぎて

テイセンター寿楽では、新年度早々から様々なイベントを立案し実行して参りました。4月はお花見として近くの川沿いを散歩に出かけ、5月は正面玄関前の広場でBBQ、フローラムでは季節のお花を観賞しました。6月は長久寺の紫陽花が見事でした。7月は七夕会、土曜の丑の日には好評のうなぎ丼を提供。8月にはボランティアの栄会さんが盆踊りで夏祭りを盛り上げてくださいました。その他コロナ明け初の外出など毎月試行を凝らしてイベントを開催して参りました。これらのイベントを通して、これまで以上にご利用者の豊かな表情を見る事が出来て喜ばしい限りです。寿楽では、本年7月からマスクの着用を原則個人の判断に委ねる【自由化】とした事により、様々な行事を更に充実させる事が出来ました。もちろん全てのご利用者がマスクを外されていると言った訳ではありませんし、感染対策を疎かにしているわけではありません。有事の際にはマスク

テイセンター寿楽

生活相談員 上平 昇兵

の着用をお願いする事や、感染予防により窮屈な思いを強いられるかもしれません。ですがアフターコロナから約1年半が経過した事で、世間は以前の様な日常を取り戻しつつある中、テイセンター寿楽においても非日常を味わう事で、ご利用されている皆さんに楽しんで頂けるよう、下半期も精進致します。



長次郎での外出



ホテル豪華すぎてデション爆上がり!



今年の海への里帰り

1日目、貸し切りバスで愛染寮を出発し、まずはとれとれ市場へ。お昼には思い思いのメニューを平らげ、昼食後は市場内を少し散歩。さすが和歌山、魚以外にもパンダとみかんに溢っていました。

再びバスで十数分、今回お世話になるホテルシーモアに到着!あまりにも大きすぎる外観、あまりにもきれいな内装に、「え、ほんまにここ泊まるん?めっちゃ豪華やん」と思ったのは私だけではないはず。そんな素敵なホテル内のプールでまずはひと泳ぎ。少し冷たい水と、照りつける太陽と、目の前に広がる海…夢中になって遊びました。すぐ横に、足湯もあり、冷えてきた体を温めつつプールサイドバーでのドリンクもグッドでした。

しばらく遊んだ後は、そのままホテルの温泉にGO!温泉の中は2階に分かれていて、それだけでも十分広いのに、加えて露天風呂もありました。立ちながら景色を眺めつつ心行くまで満喫しました。夕食は、海鮮料理!お刺身の船盛やあわびもあり、お腹いっぱいになるまで、お料理を頂きました。

ホテル内には卓球やビリヤード、ちょっとしたクライミングが楽しめるプレイルームがあり、ホテル滞在中の空き時間はそこで楽しく皆で遊びました。

2日目は、ホテルでの朝食ビュッフェを頂いた後、白良浜海水浴場へ。天候に恵まれて(恵まれすぎ?)、カンカン照りの中、海に入りました。冷たい海は心地良く、浮き輪に身を任せて浮くのを楽しんだり、深いところまで泳ぐことに果敢に挑戦したり、潜って魚や貝を見つけようとしたり、思い思いに楽しみました。足がつくようなところでも、30センチくらいの大きな魚がいて、「鯛いた!」と大興奮でした。昼食は海の家で好きなものを注文。かき氷も食べました。あまりの暑さに予定の時間よりも少し早くホテルに戻りましたが、子どもからは「もっと泳ぎたい」と元気いっぱいの声が挙がっていました。

ホテルに戻って落ち着いた頃、九州での地震の一報がありました。この地震を受けて発表された南海トラフ地震の注意報により、先ほどまで遊んでいた白良浜海水浴場も閉鎖、安全に海水浴が出来たこと、何事もなく無事に帰って来られたこと感謝せずにはいられません。その夜は前日とはがらりと変わってビュッフェ形式の夕食、そして花火を楽しみ、**3日目**は、お世話になったホテルを後にして、いざアドベンチャーワールドへ!お目当てのパンダはマイペースに笹を食べていて、可愛かったです。それぞれ班行動をして、イルカショーやライオンやトラなどの大型の動物を車の中から見たりと4時間ほど楽しんだ後奈良に帰るバスに乗り込みます。愛染寮にはほぼ予定通りの17時頃到着後、改めて夕食に焼き肉を食べに出かけました。お腹いっぱい食べて愛染寮に帰り着き、これにて3日間の海里的全日程終了とあいなりました。

天候にはとてもよく恵まれた3日間で、思う存分旅行を満喫出来ました。夏が近づくと子どもたちは海に行けることにワクワクし、帰ってきてからはよく日焼けした笑顔で「楽しかった!」と思い出を話しています。今年も子どもも大人も楽しい夏の思い出が出来ました。いつもご支援頂いている皆様のおかげでこのような楽しい海への里帰りが実施出来て、みんなで楽しむことが出来ました。感謝の気持ちでいっぱいです。



■2024年度愛染寮・海への里帰り報告

	学童	幼児
日程	8月7日(水) ~9日(金)	8月8日(木) ~9日(金)
場所	和歌山県白浜方面	和歌山県白浜方面
参加者	児童13名、職員5名、ボランティア2名	幼児4名、職員2名

■里帰り収支報告 (令和6年4月1日~8月31日)

最後になりましたが旅行を世話してくださった濱観光の吉田さん、安全運転に務めてくださった奈良交通の阿部さん、とてもよくしてくださったホテルのスタッフのみなさんそしていつも応援して下さいの方々に、心から感謝申し上げます。

保育士 江藤 夏生

収入	ひめゆり基金からの助成金	1,500,000 円		
	愛染寮自己負担分	126,313 円		
	収入計	1,626,313 円		
支出		(学童)	(幼児)	小計
	宿泊費	770,000 円	126,400 円	896,400 円
	貸切バス代及び通行料金等	367,640 円	3,000 円	370,640 円
	その他飲食代	242,442 円	30,261 円	272,703 円
	その他 (入場料金損害保険等)	86,570 円	0 円	86,570 円
	支出計	1,466,652 円	159,661 円	1,626,313 円

*今回ひめゆり基金に2,530,300円の温かいご支援を賜りました。心から、お礼申し上げます。

人事考課基礎研修

愛染寮

研修委員 緒方 優子

法人における人事考課の基礎研修については、例年、3回シリーズで構成されるリーダー研修に組み込まれていましたが、昨年度より人権の問題やハラスメントについてのテーマを新たに取り入れたため、人事考課研修は省かれていました。

しかし、人事考課は人材育成の仕組みであり、法人として基礎的な部分は共通認識をもった上で、各施設で取り組むことによって安定した人材育成の仕組みにつながるのではないかと、という研修委員の意見から、別立てで8月27日に実施することとなりました。

講師をあくなみ苑の田中将史施設長にお願

いし、各施設のリーダークラスを中心に24名が受講し、「人事考課の目的や機能」「実際の方法」などまさに基礎について学びました。4グループに分かれて、テーマごとにディスカッションを行いました。どのグループでも活発な意見交換がなされていました。有効な人事考課のための基本的な姿勢として、独りよがりにならないこと、そのために複数で話し合うこと、また部下へのフィードバックにも話し合うことが大切とされています。その最も大切な“話し合う”力を十分に持っておられることを心強く感じ、今後の法人の中心となってくれることを願いました。



新任交流会

愛染寮

児童指導員 伊藤 大芽

今年度の法人新任交流会の実行委員長を務めました、愛染寮2年目の伊藤大芽です。昨年度の交流会には新任職員として参加し、今年はリクレーターから実行委員という立場で企画運営に携わることになりました。私自身初めての実行委員長ということに加え、また今回は滝寺キャンプ場でのBBQだったため、準備や段取りを自分が中心で考える必要がありました。三班に分かれて、BBQのメニューから買い出しの段取り、レクリエーションの立案から始め既に頭はいっぱい…しかし、実行委員や

研修委員の皆さんの協力もあって、予想外にスムーズに当日を迎えることができました。当日は20人近くの新任職員が参加し、施設長の方々からの差し入れもいただき、おいしい肉とたくさんのビールと楽しいゲームで時間が短く感じるほど、充実した交流会になりました。私は今回の交流会を通じて、一人ではなく誰かの協力があって一つの事をする大切さを学びました。そして、何よりも交流会後に新任職員から「交流会楽しかった。」と言ってもらえたことが本当に嬉しかったです。



ステップアップ研修

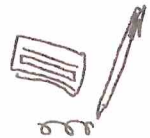
奈良県発達障害支援センターでいあー

副センター長 大西 和幸

令和6年7月17日、法人内の職務階級に応じて開催している「ステップアップ研修」において、対人援助職に必要なアセスメントの基本姿勢について講義をしました。当日は18名の法人内職員が参加し、講義や演習を中心に事例検討も行いました。「アセスメント」とは客観的な視点をもって解決すべき課題を分析する方法で、様々な分野で使われている言葉です。支援対象の方が自立した日常生活を営む上で解決すべき課題を把握するため、その方の情報を収集・分析することは対人援助において大切な支援過程になります。講義の中では、

アセスメントの種類や基本視点、情報収集のポイント、課題分析について詳しくお話をしました。事例検討では、研修委員から高齢・障害・児童の各分野の事例をあげ、グループでアセスメントの視点に立った話し合いをしました。普段の支援とは違う分野の事例を知るだけではなく、多職種の中で話し合うことで様々な視点においての意見も出ており、活発な意見交換になりました。

今回の研修で学んだことをそれぞれの事業所で活かして頂き、皆様の今後の活躍を期待しております。



リーダー研修 第一回

こども支援センターあすなる

研修委員 樋高 智代

9月6日（金）奈良市にある真言律宗の総本山 西大寺にて「チームのリーダーに求められる役割について学び、活気と意欲にあふれる職場づくりを目指す」というテーマの元、各施設のリーダー、又はリーダーを目指す職員21名が受講しました。本堂で理事長の講話後、大きな茶わんでお茶を味わう鎌倉時代から続く伝統行事「大茶盛」の体験、その後コーチングトレーナーの大川郁子先生より「コミュニケーションの質を変える～コーチングからのヒント～」という講義をしていただきました。

まず研修スタイルが椅子のみになっており、相手を見つけ、決められた時間の中でテーマにあった会話をしていきます。「現在の問題点・課題・自分に点数をつけるとしたら」「今日

得たいもの」を言葉にして相手に伝え、研修に参加した目的を明らかにする所から講義がスタートしました。

緊張から始まった研修であったと思いますが、その都度ペアになり、穏やかな雰囲気の中で相手の話に耳を傾け、笑顔で話をする受講生が増え、とても和やかで実りある研修となりました。

今回はリーダーとしての心得、悩みなどを共感しあう部分も多くあり、「一人ではない、仲間がいる」ということも感じてもらったのではないかと思います。

リーダー研修は今後、第二回・第三回へと続きます。

施設のリーダーとして今後も活躍していかれることを期待しています。



叙勲
Award

「最高の名誉」



極楽坊あすかこども園
主幹保育教諭
田中 明美

この度令和6年春の叙勲で「瑞宝単光章」をいただきました。私の人生において最高の名誉といえます。4月に県の伝達式で奈良県知事より生まれて初めての勲章と賞状を手渡していただき、5月10日に皇居に参内し、天皇陛下に拝謁、お言葉を賜り、歓喜の極みとなりました。

振り返れば保育士として勤めるまでも紆余曲折がありました。しかしこの極楽坊あすかこども園とご縁を結んでいただいたお陰で、まだまだ未熟なこの私ではありますが、こうして晴れ舞台に立たせていただくことができました。これも宝山寺福祉事業団の関係各位の皆様方、歴代の園長先生はじめ職場の皆様のご指導、ご支援があったからです。また家族の協力、理解もありました。このことを思うと本当に感謝の念に堪えません。自分の幸せを噛み締めるばかりです。

ただ 私が勤め始めさせていただいたころは、保育士の仕事は将来になりたい職業のベスト3にはいつも入っているぐらいの人気の職業でした。しかし、近年は社会情勢の変化のためか、そうではなくなってきたようで、社会問題にもなっています。これからを担う若い方々にも、もっと保育の仕事の素晴らしさや、やりがいを感じることができる仕事だということを知ってもらえたらと思います。どんなに環境が変化しても目の前の子ども達の笑顔の輝きは変わりありません。この尊い笑顔を守るために、私も微力ではありますが、瑞宝単光章をいただいた重みを胸に頑張っていきたいと思います。

ありがとうございました。

社会福祉法人 宝山寺福祉事業団 第28回研究発表会

大会テーマ

「こども・どまんなか」

～一緒にさがそう、つながる支援～

日時：令和7年1月26日(日)

12:30～16:00

場所：生駒市コミュニティセンター

【発表施設】

○仔鹿園 ○いこまこども園 ○愛染寮

令和6年度 役員会等報告 (令和6年4月～9月)

【第1回 法人理事会】 令和6年6月11日(火) 桃李館研修室

- 第1号議案 令和5年度資金収支予算について支出超過の承認を求める件
- 第2号議案 監事監査報告
- 第3号議案 令和5年度事業報告並びに決算について承認を求める件
- 第4号議案 極楽坊あすかこども園園舎解体工事等について報告
- 第5号議案 理事長及び副理事長の職務執行状況について報告
- 第6号議案 定款の一部改正について承認を求める件
- 第7号議案 経理規定を一部改正する件
- 第8号議案 定時評議員会を招集する件
- 第9号議案 顧問を委嘱する件

【定時評議員会】 令和6年6月26日(水) 極楽坊あすかこども園会議室

- 第1号議案 令和5年度事業報告並びに決算について報告
- 第2号議案 理事長及び副理事長の職務執行状況について報告
- 第3号議案 定款の一部改正について承認を求める件
- 第4号議案 顧問委嘱の報告

◆編集後記

今年元旦に石川県能登半島震災・8月には宮崎地震と、南海トラフ地震の前兆かとどんどん身近な事として考えるようになりました。

カセットコンロ・水・レトルト食品など日常に使うものを余分に買置きはしています。最近、携帯トイレと48時間使用可能なるうそくを購入しました。しかし、これらをどこに保管しておくか、もし家が倒壊しても取り出せる場所はどこか!課題はまだまだ山積みです。

編集委員 斉藤